

平成 27 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書
(抜粋)

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	12

事業報告書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総 括 事 項	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	
（1）文化財発掘調査	4
（2）埋蔵文化財啓発活動	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
（1）いわき市アンモナイトセンター	4
（2）いわき市考古資料館	5
（3）いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家	5
（4）いわき市暮らしの伝承郷	6
（5）いわき市生涯学習プラザ	7
（6）福島県いわき海浜自然の家	8
（7）いわき市勿来勤労青少年ホーム	8
（8）市収蔵化石資料整理事業	8
3 管 理 部 門（法人会計）	9
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評 議 員 会	10
2 理 事 会	10
3 役員等に関する事項	10
IV 職員に関する事項	
1 事 務 局	11
2 施 設	11

I 概 況

1 総括事項

平成27年度は東日本大震災から5年目、公益財団法人移行2年目の年となり、震災からの復興に向けて本事業団の役割を認識し、市・県民協働による様々な事業を展開した。理事会3回、評議員会1回を開催し、公正・公平で透明な事業運営に努めた。

復興の加速化が進み、いわゆる物的復興から心的復興へと変化しつつある中で、埋蔵文化財の発掘調査事業(公益目的事業1)と教育文化、生涯学習施設の管理運営事業(公益目的事業2)を中心として、本事業団の専門性を生かし、市・県民の心の支えになるよう職員一丸となって取り組んだ。

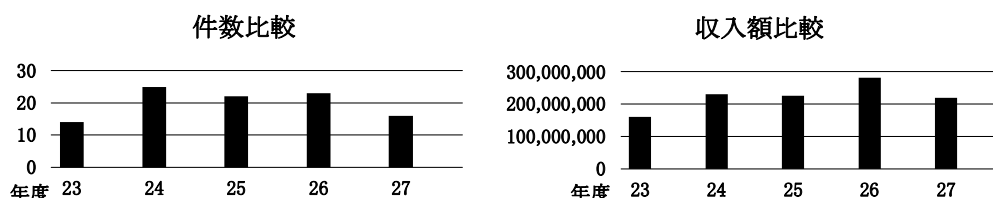
文化財部門においては、市内の震災復興関連の発掘調査事業が減少し、市道・病院建設・区画整理事業などの市関連の調査事業、市外の調査等を受託した。また、事業量は前年度より7件少ない16件の事業となり、収入額は、決算額対比で昨年度より約6,100万円少ない約22,000万円となった(下表)。

施設部門は、アンモナイトセンター・考古資料館・草野心平記念文学館及び生家・暮らしの伝承郷・生涯学習プラザ・海浜自然の家に加え勿来勤労青少年ホームの8施設の指定管理業務を受託した。アンモナイトセンター・生涯学習プラザ・海浜自然の家・勤労青少年ホームは利用者数が増加した(下表)。

このことから、平成26年度に引き続き、安定的な収入源の確保と経費節減により、約180万円の黒字決算となった。

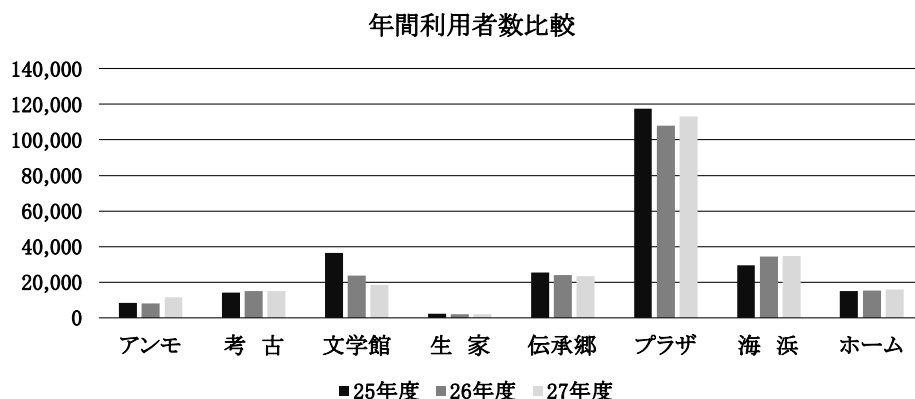
○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較(23～27年度)

年度	23	24	25	26	27
契約件数 (単位:件)	14	25	22	23	16
収入額 (単位:円)	160,497,750	230,799,600	226,446,000	281,235,210	219,915,000



○ 施設年間利用者数比較(25・26・27年度) ※ ()内は指定管理受託前のもの

	アンモ	考古	文学館	生家	伝承郷	プラザ	海浜	ホーム
25年度	8,295	14,147	36,424	2,282	25,408	117,515	29,323	(14942)
26年度	7,942	15,041	23,525	1,988	23,969	107,857	34,425	(15296)
27年度	11,638	14,907	18,512	1,864	23,431	113,194	34,687	15,749



Ⅱ 業 務

1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）

（1）文化財発掘調査

平成27年度に受託した事業は16件であり、事業内訳は、いわき市内の発掘調査3件、試掘調査2件、資料整理・報告書作成9件、市外の檜葉町の発掘調査（資料整理含む）1件、広野町の資料整理・報告書作成1件である。うち、2件は前年度からの繰越事業である。

発掘調査等における主な成果として、天冠埴輪が発見された「神谷作101号墳」の発掘調査が実施され、墳形は前方後円墳で、周溝内からは多数の埴輪が検出された。また、檜葉町「高橋遺跡」から縄文時代後・晩期の拠点的な集落が検出され、男性形の土偶が出土したことなどが特筆される。

埋蔵文化財調査報告は5冊を刊行した。

（2）埋蔵文化財啓発活動

ア 現地説明会の開催

No	実施月日	実施項目	内 容
1	平成27年5月30日(土)	神谷作101号墳	参加者250名。「文化財ニュースいわき」第77号を発行し市民に配布した。
2	平成27年12月13日(日)	高橋遺跡	参加者110名。「文化財ニュースいわき」第78号を発行し市民に配布した。

イ 企画展の共催について

No	実施月日	実施項目	内 容
1	平成27年9月16日(水) ～同 11月16日(月)	「平成26年度発掘速報展」	考古資料館との共催。30遺跡の調査成果を一般に公開。入館者2,136名
	平成27年10月17日(土)	関連事業「遺跡報告会」	各遺跡の調査成果について、発掘調査を担当した職員が報告した。参加者は32名

ウ 頒布図書

調査報告書3冊を増刷し、市民・研究者等に頒布した。内訳は、『久世原館跡5・番匠地遺跡4』50冊、『上野遺跡2』30冊、『前上ノ山遺跡』20冊。

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

（1）いわき市アンモナイトセンター

平成27年度の入館者総数は、11,638名で昨年度比3,696名の増となった。年度当初は天候不順により主要事業である一般体験発掘事業の入館者数が低調だったが、6月以降は順調に推移しすべての月に於いて前年度を上回る状況となった。9月にはシルバークロニクルがあり、また、11月にはテレビで放映されたこともあり大幅な増となった。

一方で、教育機関・団体を対象とした特別体験発掘については、22団体576名の参加となり、前年度と同様に低調な状況となった。東日本大震災の原発事故による風評が根強く残っているものと思われる。

また、年6回の開催とした親子自然探訪教室は、95名の参加となった。テーマにより参加者に偏りがあり人気のあるテーマ探しが今後の課題となっている。

小中学校の夏・冬休み期間に合わせた企画展の開催期間中の入館者数は、夏休み企画展「アンモナイトの造形」は2,745名で昨年度比526名の増、冬休み企画展「琥珀の秘密」は876名で昨年度比615名の増となった。

また、企画展に併せて実施した、本物の化石を埋め込んだ化石クリーニング体験及びコーパルを使った勾玉作り体験は大変好評であった。

その他、地元地区との連携事業として「化石講演会」や啓蒙普及事業として「職場体験学習」、さらには「出前講座」を実施した。

(2)いわき市考古資料館

平成27年度は、利用者総数14,907名と開館以来最多を数えた昨年度比134名の減となった。内訳を見ると、入館者数は12,121名で昨年度比1,148名減、出前講座などの館外利用者数は2,786名で昨年度比1,014名増であった。入館者数の大幅減は、昨年度の第1回企画展「近世いわきの藩展-湯長谷藩-」が、地元常磐地区に所在していた藩であったこと、さらに、映画「超高速!参勤交代」の放映があったことから入館者が激増したこと、出前講座などの館外利用者数の大幅増は、公民館や支所などでまちづくり・まちおこしの一環として地域の歴史学習が数多く開催されたことが大きな要因としてあげられる。

企画展は、通常の企画展3回とミニ企画展1回、県立博物館の移動展1回と勿来関文学歴史館との共催展1回を開催した。ミニ企画展「干支展」は酉から始まり干支を一巡することができた。

講座・講演会は、「いわきの歴史講座」全5回、「自由研究に挑戦しよう!!」、「ボランティア養成講座」及び企画展に合わせた講演会や解説会、探訪会など8回の計15回開催した。

体験学習会は、「ゴールデンウィーク体験学習会」・「夏休み体験学習会」・「いわきキッズミュージアム2015」・「古代まつり」・「勾玉づくり体験会」など5体験会21日間開催した。

団体入館者は、昨年度比43件減73件・1,098名減2,139名となった。震災後続いていた阪急交通社のバスツアーが昨年度で終了したことが大きな要因としてあげられる。

収蔵資料の調査研究や資料の貸出、鑑定や問合せなどへの対応も当館の重要な業務のひとつであり、市民及び研究者や学生、そして博物館などの要請に対応した。また、8月には大学生1名の学芸員実習を実施した。

このほか、経年劣化による雨漏りや設備の故障などが頻発しており、所管課と協議の上、可能なものについては随時修理・修繕を行い、施設の維持・管理に努めてきた。また、研修への参加により接遇などの向上に努めるとともに、ホームページを新規リニューアルし、内容の充実に努めた。

復興新収蔵庫建設に伴う関係工事は、当年度3月に完了した。

(3)いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は18,512名で、昨年比5,013名の減となり、年間開館日数は312日間だった。

平成27年度は、春、夏、秋、冬と4つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平の詩 視覚詩編」は、昨年度の「草野心平の詩 富士山編」に引き続き、心平の作品を新たな切り口で展覧することを目的に開催した。「る」が1行だけならんだ「生殖 I」、45個の「Q」で表現した「天気」など、草野心平が絵画的手法を用いて表現した「視覚詩」を、自筆原稿、書籍、初出誌などで展覧し、詩人の魅力を広く紹介することにもつながった。

夏の企画展「新美南吉展」は、夏休みの期間に合わせ、小学校の全ての教科書に「ごん狐」などの作品が掲載されている児童文学者を取り上げた。その人間味と優しさがあふれる作品に引かれた愛読者や親子連れなどの来館者が見られた。また、市内の戸渡分校児童・生徒に「新美南吉全集」が贈られた経過も含めて皇室とのゆかりにも光をあて、地域の歴史を広く紹介する機会にもなった。

秋の企画展「星新一・星一展」では、ショートショートと呼ばれる短編の新分野を確立し、日本SF界のパイオニアとして活躍した星新一と、新一の父であり「日本の製薬王」と称されたいわき市錦町出身の実業家星一を取り上げ、それぞれ果敢に新境地を切り開いていった二人の足跡をたどるとともに、初公開資料や書斎再現などで新一の作品の魅力や、そして一の活動やいわきとの関わりを紹介した。また、新一の次女、星マリナ氏による記念講演会では、多数の聴講者が県外から来館する等、盛況ぶりとともに当館の事業展開、内容が広く認知されたと言える。

冬の企画展「所蔵品展 草野心平のスケッチ」では、草野心平の多彩な創作活動の中から、スケッチを中心にした絵画作品を取り上げ、詩人独特の感性によって描かれた線と色彩の魅力を紹介した。本展も春の企画展同様、所蔵資料を活用し、その魅力を広く市民に紹介する機会にもなった。

スポット展示は、「草野心平と平町」「草野心平の童話」「吉野せい」「草野天平」を開催し、心平の創作活動の一面やいわきゆかりの文学者、資料を紹介した。

普及活動では、夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。あわせて、絵本を読み聞かせるおはなし会を開催し、子どもたちが絵本などに接することで、物語の楽しさに親しむきっかけになることを目指した。また、夏の企画展会期中に開催した「アクアマリンふくしま移動水族館」では、小川地区の団体と連携して地場産品や軽食を販売するなど、企画展にあわせ親子で終日楽しめる催しを開催した。さらに小川中学校吹奏楽部による演奏会など、文学館が立地する小川町住民との連携を図った。

いわき市草野心平生家

平成27年度の入館者数は1,864名で、昨年比124名の減であった。年間開館日数は312日間だった。

通常の開館時はボランティアの会員が心平と故郷のかかわりを解説しつつ、温かく来館者に接している。催しは、春の「心平誕生日の市民朗読会」で小川小学校、小川中学校の児童、生徒の参加が定着し、秋の「心平忌・心平を語る会」とあわせて心平を顕彰する機会になっている。さらに、親子連れなどが楽しく参加するワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」、心平の弟天平を偲ぶ「草野天平の集い」など、心平と故郷とのつながりに関心を持つきっかけとなる催しを展開した。

(4)いわき市暮らしの伝承郷

平成27年度の入園者数は、前年度比540名減の23,431名となった。平成27年度は、特に市民展の利用促進に力を入れた。過去の利用団体への市民展利用可能日の空き状況の送付を実施し、利用者数の拡大に努めたが、結果として前年度比約2%減の結果となった。

伝承郷の中心的事業である景観復元・伝承・管理作業は、平成11年の開園以来、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施しているところである。平成27年度も畑作・里山作り・庭木の手入れ、家屋の日常的な清掃、囲炉裏火焚き・薪作り、梅干し作り・干し柿作りなど幅広い項目について実施した。その方法や扱う道具についても、展示の一環として位置付け、極力昔の方法・道具を取り入れながら実施した。

企画展は、第1回「伝統こけし展 ー弥治郎系ー」、第2回「絵本・紙芝居と野村たかあき作品展」、第3回「たばこパッケージ展 ー伝承郷収蔵品展ー」、特別展は「炭鉦(や

ま)への想い「菊地正男作品展Ⅱ」の合計4回の展示会を開催した。また、これら企画展関連事業として、それぞれ展示解説会や関連講座などを開催した。

体験学習は、「民話の語り①～⑥」など、予約無しで気軽に参加できるものや、「ヤマブドウの携帯ケース作り」や「竹カゴ作り①・②」など技術を要するもの、そして昔行われていた「正月飾り作り①・②」・「餅花作り」など、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に企画し、通算28回を実施した。さらに学校や自治会などの要望による、昔遊びや古民家での「昔掃除体験」、「餅つき」などの特別体験学習や学者連携事業も随時実施して好評を得た。また、いわきリエゾンオフィス企業組合との共催により、昔野菜ユウガオを使った「かんぴょう作り体験」も実施した。

伝承郷講座は、『万葉集』や大須賀筠軒の『磐城誌料歳時民俗記』、高木誠一の『石城北神谷誌』等の資料を参考に、「民俗学はおもしろい!!」を全5回で実施した。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など、年間を通して22回の伝統行事を古式に則った再現展示を実施した。

伝統芸能実演は市内の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」を平菅波青年会、「三匹獅子」を三和町合戸宿組、南会津町の「会津万歳」を安佐野万歳保存会に依頼し、それぞれ伝統芸能を実演しその継承と伝承を図った。

小学生を対象とした「キッズ民話語り部教室」は、子ども語り部の養成講座であり、平成27年度で第22期を迎えた。対象の小学生に加え、過去の経験者(中～大学生)の参加も見られた。

市民の文化活動発表の場として定着した企画展示室のサークル・団体への貸出は、通算11団体であり昨年度より3団体増えた。

その他、ガイドボランティアなどを対象としたボランティア研修会の開催、サークル・団体による篠笛や箏・ハーモニカ演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や寄贈民具の調査・収集・登録なども実施した。

(5)いわき市生涯学習プラザ

平成27年度は、前年度より5,337名増の113,194名の利用者があった。施設使用許可申請数も、2,902件で27件の増となり、このうち社会教育団体の申請件数も1,969件で89件の増であった。

主催講座は、25の講座を開催。また、ボランティア活用事業は、子育て支援ボランティアによる「紙しばい・絵本の読み聞かせ」「子どもと遊ぼう」、ITボランティアリーダーによるパソコン講座を毎月開催するなど、若年層から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークル団体によるサークル企画講座では、「朗読教室」「親子和紙ちぎり絵体験」「粘土でつくるミニチュアフード」などを開催し、好評を博した。

全市的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、341名の入学生を迎えて4学部(リベラル・アーツ学部、ソーシャルワーク学部、環境再生学部、いわき学部)を開催し、多彩な講座を開催した。また、11回目となる「生涯学習フェスティバル」は、前年度より816名増の3,378名の入館者があった。子どもじゃんがらなど、新たにいわきわくわく仕事塾の発表なども行われ、多くの市民への交流の場を提供することができた。また、当日は平成14年度の開館以来の200万人目の利用者も迎えることができた。

いわきヒューマンカレッジ、プラザ主催講座や生涯学習フェスティバルの開催にあたっては、いわき市生涯学習支援ボランティアの会の運営支援をいただいた。

これらの事業展開にあたっては、ホームページや「広報いわき」のほかに、講座ごとの案内チラシを通して情報の発信や提供を行うとともに、利用者懇談会やアンケート調

査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

平成27年度の利用状況は、481団体延べ34,687名を数え、震災前の平成22年度(546団体66,611名)に比して52%ほどであった。社会教育団体の利用増の一方で、学校教育団体については129団体延べ10,035名(平成22年度は342団体、延べ50,576名)と平成22年度の3割にとどまった。延べ人数では昨年度を上回ったものの、平成22年度の数値にはまだまだ至っていない。

企画事業は、春・秋のオープンデーなど施設の一般開放によって、当所を広く県民に周知するとともに、さまざまな企画事業をとおして当所への理解を深めることができた。さらに、閑散期の利用促進として、「森の音楽会」や「クラフトのつどい」などを実施し好評を博した。

これら各種事業においては、広報チラシ・ポスターの配布をはじめ、ホームページに事業案内及び報告等を随時掲載し、広く県民への周知を図った。

なお、所内の各種研修や報告会のほか、所外の様々な研修によって職員の資質向上に努め、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(7) いわき市勿来勤労青少年ホーム

平成27年度は、市から指定管理者として、平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間の指定管理を受託した。受託初年度の利用者数は15,749名で、前年度に比べて453名、約3%の増加であり、過去10年間で最多利用者数となった。その大きな要因として、本事業団の専門性や独自性のある管理運営により、広く市民に情報提供ができたことがあげられる。

教養講座は、年間講座14講座、短期講座4講座の合計18講座を実施した。新規講座としては、「Word・Excel講座」「いわきの歴史講座」を開催するなど、市民のニーズに合った講座を提供した。受講者数は298名で、前年度に比べて100名の増加であり、特にエクササイズを兼ねた「ヨガ」「ベリーダンス」の講座が好評であった。

サークル活動は、27サークル、262名であり、9名増と昨年度と同様な数値で、共通の趣味であるダンスや卓球・テニスなど、年間を通して実施した。

年1回のスポーツイベントである福島県勤労青少年ホーム交歓会は、バトミントン種目に19名が参加し、県内の会員と情報共有しながら親睦を深めることができた。

勤労青少年の日記念事業である「勿来ホーム祭」は、雨天にもかかわらず、早朝から多くの市民が来館し、成果発表や作品展示などを楽しみながら参加することができ、好評を博した。特に、料理やパンなどの食材コーナーは人気があり、子供から高齢者まで人気が高かった。

これらの各事業においては、ホームページや広報誌をはじめ、各講座の案内を通して、最新情報の提供を行うとともに、運営委員会の意見などを反映しながら、市民サービスを最優先として効果的な管理運営に努めた。

(8) 市収蔵化石資料整理事業

市収蔵化石資料の整理(分類・登録・修復・保存処理など)については、平成23年度から市緊急雇用創出事業として実施してきたが、平成26年度をもって終了となった。いわき市の化石資料の重要性を鑑み、市民に広く公開・展示し、教育文化の振興をはかるため、本化石資料の整理事業を平成27年度自主事業として実施した。

3 管 理 部 門 （ 法 人 会 計 ）

(1) 業務執行体制等について

公益財団法人に移行して2年目の本年度は、これまで以上に公正・公平性を保ち、透明性を維持して各事業の適正な運営に努めた。

体制強化策の一つとして、10月1日付、正規職員を1名雇用し事業運営の充実を図った。さらに将来を見据えて、平成28年度新規採用に向けて試験を実施し、新たに4名の採用を内定した。

(2) 情報開示について

これまで事務局及び各施設のホームページをとおして、情報開示や企画事業等の情報発信を行ってきたが、今年度新たに指定管理を受託した勿来勤労青少年ホームのホームページを開設した。さらに事業団ホームページ内に埋蔵文化財部門のコーナーを新設し、いっそうの情報提供に努めた。

また、これまで不統一であった各施設のホームページアクセス数の集計方法を統一した。

(3) 研修等について

業務及び自主研修のほかに、AED講習や接遇研修、安全衛生研修等に参加して、より専門性の高いサービスと安心・安全を提供できる環境づくりに努めた。

また、中堅職員研修(11月12日・13日)を実施した。「職場におけるコミュニケーションスキルの向上」や「管理職の役割とは」のほか、「ハラスメントをなくすために」など実践的な内容を学び、有意義な研修となった。

(4) 啓発・広報等について

たからものずかん「いわきの化石Ⅱ-無脊椎動物、植物編-」「いわきの縄文時代Ⅰ-総括編」を5万部、ハンドブック「化石鑑定の基礎2016」を2千部発行した。市内の小・中学校の児童・生徒をはじめ、教育文化施設や支所・公民館、市内の商業施設等に無料で配布した。

また、アンモナイトセンターにおいて事業団主催の「ヤバイセラス化石展」を開催した。関連事業として、川村学園女子大学二上政夫教授と、本事業団鈴木直研究員による記念講演会や体験学習会等を開催し好評を博した。

本事業団職員が有する専門知識を生かした出前講座は大変好評で、19団体の利用があり講座数31回、延べ965名の利用があった。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号 第2号	平成26年度決算の承認について 監事の選任について	平成27年6月29日	平成27年6月29日

2 理事会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号 第2号	平成26年度決算の承認について 平成27年度定時評議員会の招集について	平成27年5月27日	平成27年5月27日
第2回	第1号	就業規則及び定年退職者の再雇用に関する規程の改正について	平成27年12月22日	平成27年12月22日
第3回	第1号 第2号 第3号	給与等に関する規程及び定年退職者の再雇用に関する規程の改正について 平成28年度事業計画及び収支予算について 平成28年度臨時評議員会の招集について	平成28年3月23日	平成28年3月23日

3 役員等に関する事項

評議員 7名、理事 8名、監事 3名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
就任	平成27年4月1日	評議員 増子 裕昭 評議員 荒川 正勝	
	平成27年7月1日	監事 伊藤 章司	
辞任	平成28年3月31日	評議員 荒川 正勝	

IV 職員に関する事項

平成28年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	3	2	—	—	—	—	—	5
企画管理係	—	1	—	1	1	—	5	8
調査第一係	—	1	—	—	3	—	—	4
調査第二係	—	—	2	—	—	—	15	17
計	3	4	2	1	4	0	20	34

2 施設

区分	館長 所長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
アンモナイト センター	1	—	1	—	—	1	1	4
考古資料館	(1)	(1)	(2)	—	(1)	—	—	0 (5)
文学館	2	—	2	—	—	—	4	8
伝承郷	1	—	1	—	1	—	5	8
生涯学習 プラザ	1	1	1	1	1	—	6	11
いわき海浜 自然の家	2	—	—	2	3	3	7	17
勿来勤労 青少年ホーム	1	—	—	—	—	—	2	3
計	8 (1)	1 (1)	5 (2)	3	5 (1)	4	24	51 (5)

合計	11 (1)	5 (1)	7 (2)	4	9 (1)	4	44	85 (5)
----	-----------	----------	----------	---	----------	---	----	-----------

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	14
2 正味財産増減計算書	15
3 財産目録	18

貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	165,089,246	189,072,881	△23,983,635
未収金	18,602,971	31,614,487	△13,011,516
前払金	0	41,730	△41,730
未経過通信運搬費	7,722	5,080	2,642
未経過租税公課	1,000	2,600	△1,600
製品	0	0	0
流動資産合計	183,700,939	220,736,778	△37,035,839
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			
器具・備品	333,936	654,261	△320,325
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	10,006,060	10,015,300	△9,240
その他固定資産合計	10,789,900	11,119,465	△329,565
固定資産合計	20,789,900	21,119,465	△329,565
資産合計	204,490,839	241,856,243	△37,365,404
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	58,117,237	76,065,213	△17,947,976
未払消費税	7,171,300	14,338,400	△7,167,100
未払法人税等	0	0	0
前受金	0	13,847,960	△13,847,960
預り金	962,808	1,182,139	△219,331
流動負債合計	66,251,345	105,433,712	△39,182,367
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	66,251,345	105,433,712	△39,182,367
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	128,239,494	126,422,531	1,816,963
正味財産合計	138,239,494	136,422,531	1,816,963
負債及び正味財産合計	204,490,839	241,856,243	△37,365,404

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 (A)	32,200	32,200	0
基本財産受取利息	32,200	32,200	0
② 事業収益 (B)	607,839,389	691,933,897	△84,094,508
文化財調査受託料	219,915,000	281,235,210	△61,320,210
施設指定管理料	376,832,160	371,897,000	4,935,160
	16,432,000	16,432,000	0
	12,901,000	12,901,000	0
	67,794,000	67,794,000	0
	3,151,000	3,151,000	0
	40,450,000	40,450,000	0
	85,320,000	93,349,000	△8,029,000
	138,470,000	137,820,000	650,000
	12,314,160	0	12,314,160
施設事業受託料	5,198,109	33,383,587	△28,185,478
	3,633,000	0	3,633,000
	1,565,109	1,489,907	75,202
	0	13,240,800	△13,240,800
	0	4,628,000	△4,628,000
	0	14,024,880	△14,024,880
施設利用料	5,763,880	5,222,530	541,350
出版物頒布料	130,240	195,570	△65,330
③ 受取負担金 (C)	0	0	0
講師派遣料	0	0	0
④ 受取寄附金 (D)	0	0	0
寄附金	0	0	0
⑤ 雑収益 (E)	1,058,478	1,496,229	△437,751
受取利息	33,124	26,006	7,118
雑収益	1,025,354	1,470,223	△444,869
経常収益計 (A~E)=(F)	608,930,067	693,462,326	△84,532,259
(2) 経常費用			
① 事業費 (G)	576,943,161	656,325,819	△79,382,658
給料手当	140,030,990	149,220,853	△9,189,863
賃金	157,019,826	155,527,377	1,492,449

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
共済費	41,062,743	43,221,812	△2,159,069
報償費	5,807,452	5,018,368	789,084
旅費	4,556,751	3,423,432	1,133,319
消耗品費	14,011,484	19,100,233	△5,088,749
被服費	331,959	319,269	12,690
燃料費	6,549,964	9,906,663	△3,356,699
食糧費	354,553	195,648	158,905
印刷製本費	13,148,227	17,082,868	△3,934,641
光熱水費	29,283,226	30,414,017	△1,130,791
修繕費	7,902,697	12,777,848	△4,875,151
医薬材料費	36,832	36,497	335
通信運搬費	7,769,260	6,644,833	1,124,427
広告料	360,102	336,342	23,760
手数料	1,297,549	1,267,270	30,279
保険料	945,118	955,654	△10,536
委託料	67,217,450	71,910,690	△4,693,240
使用料及び賃借料	48,679,815	51,873,067	△3,193,252
工事請負費	1,278,147	44,635,320	△43,357,173
原材料費	700,105	895,569	△195,464
負担金	399,000	292,450	106,550
公租公課	27,536,686	27,316,965	219,721
消耗什器備品費	342,900	3,490,727	△3,147,827
減価償却費	320,325	462,047	△141,722
② 管理費	30,169,943	25,392,696	4,777,247
報酬	215,800	249,000	△33,200
給料手当	10,560,379	10,659,954	△99,575
賃金	6,004,176	3,490,098	2,514,078
共済費	3,455,158	3,043,456	411,702
報償費	287,290	351,400	△64,110
旅費	424,000	330,283	93,717
交際費	175,000	45,000	130,000
消耗品費	975,814	563,054	412,760
燃料費	73,950	32,809	41,141
食糧費	75,267	24,084	51,183
印刷製本費	2,713,144	992,520	1,720,624
光熱水費	149,658	142,078	7,580
修繕費	41,040	177,120	△136,080
通信運搬費	279,112	130,381	148,731

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
広告料	32,400	0	32,400
手数料	390,674	411,779	△21,105
保険料	56,960	48,430	8,530
委託料	706,963	977,777	△270,814
使用料及び賃借料	1,078,893	1,066,615	12,278
原材料費	0	150,000	△150,000
負担金	396,221	182,494	213,727
補償費	0	11,811	△11,811
公租公課	1,623,364	1,840,485	△217,121
消耗什器備品費	454,680	472,068	△17,388
経常費用計 (G+H) = (I)	607,113,104	681,718,515	△74,605,411
当期経常増減額 (F-I) = (J)	1,816,963	11,743,811	△9,926,848
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (K)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (L)	0	0	0
当期経常外増減額 (K-L) = (M)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (J+M) = (N)	1,816,963	11,743,811	△9,926,848
一般正味財産期首残高 (O)	126,422,531	114,678,720	11,743,811
一般正味財産期末残高 (N+O) = (P)	128,239,494	126,422,531	1,816,963
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	32,200	32,200	0
一般正味財産への振替額	△32,200	△32,200	0
当期指定正味財産増減額 (Q)	0	0	0
指定正味財産期首残高 (R)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高 (Q+R) = (S)	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高 (P+S)	138,239,494	136,422,531	1,816,963

財 産 目 録

平成28年 3 月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	事務局、施設 6 か所	手許保管	181,750
郵便振替	郡山地方郵便局 上湯長谷郵便局	運転資金	3,331
預金	普通預金		
	東邦銀行湯本支店 (No.550278)	運転資金	124,168,361
	東邦銀行湯本支店 (No.645023)	運転資金	4,240
	東邦銀行湯本支店 (No.771207)	運転資金	0
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165667)	運転資金	9,248,927
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165675)	運転資金	1,305,515
	大東銀行湯本支店 (No.1320261)	運転資金	85,532
	福島銀行湯本支店 (No.1020548)	運転資金	91,590
	定期預金		
	東邦銀行湯本支店 (No.96210634)	運転資金	10,000,000
	大東銀行湯本支店 (No.2106944)	運転資金	10,000,000
	福島銀行湯本支店 (No.3117306)	運転資金	10,000,000
未収金		文化財調査受託料未収等	18,602,971
未経過通信運搬費	切手	在庫	7,722
未経過租税公課	印紙	在庫	1,000
流動資産合計			183,700,939
(固定資産)			
基本財産			
投資有価証券	第97回利付国債 5年 東邦銀行湯本支店	市出捐金	10,000,000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公 1 事業目的保有財産	333,936
電話加入権		公 1 ・法人会計事業目的保有財産	449,904
投資有価証券	第106回利付国債 5年 大和証券いわき支店	運転資金運用	10,006,060
固定資産合計			20,789,900
資産合計			204,490,839
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員 3 月分賃金等	9,580,075
	物件費	業者に対する未払額	48,537,162
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		962,808
未払消費税	いわき税務署	27年度消費税	7,171,300
流動負債合計			66,251,345
固定負債合計			0
負債合計			66,251,345
正味財産			138,239,494